

## ゲームによる本の紹介事例\_「カタン」

「カタン」は無人島を開拓していくゲームでした。

無人島といえば、『十五少年漂流記』が思い浮かびますが、こちらの本は実話です。

### ① [『無人島に生きる十六人』須川 邦彦／著 新潮社 2003.7](#)

明治時代の日本人船乗り16人が遭難、サンゴ礁の無人島に流れ着きました。そこで井戸を掘ったり、見張りやぐらを建てたり、生活環境をととのえていきます。食べ物は魚が主ですが、何とアオウミガメがおいしいのだそうです。海鳥やアザラシと交流しながら、力を合わせて危機を乗り切る人々の姿。感動の実話です。

### ② [『図解 中世の生活』池上 正太／著 新紀元社 2016.10](#)

「カタン」のイメージは中世くらいのヨーロッパのようです。小麦を作り、レンガを焼いています。盗賊が横行する一方、騎士団がいます。農民の暮らしや議会のこと、大学のことなど、カタンに登場する多くのことが、この本では1テーマ2ページで解説されています。「カタン」の世界をよりリアルに感じられる本です。

### ③ [『中世ハンザ都市のすがた』中島 大輔／訳 朝日出版社 2016.12](#)

「カタン」で造りたいのが、都市ですね。こちらは、無人島ではないですが、中世ヨーロッパ都市のビジュアル本です。「ハンザ同盟」で有名な、北ドイツの都市を描いています。馬車が行く街道、レンガ造りの建物、市場や市庁舎の中、教会の建築現場など、「カタン」の島が発展した後はこんな感じだろうなというのがよくわかります。

### ④ [『戦国武将の土木工事』豊田 隆雄／著 彩図社 2020.12](#)

「カタン」は中世ヨーロッパの街道や開拓地、都市の建設といった土木工事、建設工事のゲーム。では、同じころの日本は？というのがこの本です。織田信長や豊臣秀吉、武田信玄、今川義元らの行った道路整備、堤防づくり、街づくりなどがわかりやすく解説されています。博多港の工事も登場します。

### ⑤ [『インフラ・イノベーション』藤井 聡／著 育鵬社 2019.5](#)

道路や堤防、鉄道や水道など、私たちの生活の基盤にあるものをインフラと言います。近年、そういったインフラの老朽化が問題視されているようです。この本には、そんなインフラを改修・改善して、社会をより安全で楽しいものにするアイデアがたくさん書かれています。日本の国も「カタン」の島に負けないくらい、まだまだ発展の可能性があるようです。